

公立八鹿病院組合

管理者 富 勝治 様

監査委員 今 井 久 雄

監査委員 山 本 賢 司

令和元年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、令和元年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算につき、審査の結果次のとおり意見を付する。

第1 審査の概要

1 審査の期間

令和2年6月12日、6月17日、6月26日 3日間

2 審査の対象

令和元年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算

3 審査の方法

令和元年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査にあたっては、都市監査基準に準拠して、管理者から提出された決算書について、決算報告書、財務諸表、決算附属書類、ならびに事業報告書をもとに審査を実施した。関係会計諸帳票、および預金残高証明書等証拠書類と内容の照合点検を行い、財政状態及び経営状況の実態を把握した上で各種資料により、過去数年の経営状況等の推移、他病院や全国平均との比較、ならびに経営分析指標に基づく検討や分析、実査を行い、事業の効率執行などを主眼に決算審査を実施した。

4 審査の結果

決算書及び決算附属書類等は、法令に準拠して作成され、当監査委員は意見表明の基礎となる適切な監査証拠を入手したと判断した。計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

第2 総 説

1 事業量

病床数は、422床(一般380床〔八鹿338床、村岡42床〕、療養35床〔八鹿35床〕、結核7床〔八鹿7床〕)である。令和元年度の年間入院患者総数は、108,263人(前年度、102,272人)で5,991人(前年度5.9%)の増加。内訳は八鹿病院で5,689人増、村岡病院で302人増となっている。病床利用率は八鹿病院が71.9%(前年度64.5%)と上昇、村岡病院が54.2%(前年度52.4%)と増加。全体で、70.1%(前年度63.4%)と上昇した。年間外来患者総数は、139,074人(前年度135,909人)で3,165人(2.3%)増加しており、内訳は八鹿病院で4,005人の増、村岡病院は840人の減となっている。

2 経営状況

(1) 病院事業の収益的収支の状況

令和元年度の病院事業収益は、7,394,156千円(前年度7,019,050千円)で、対前年比5.3%の増加、病院事業費用は、7,821,508千円(前年度7,750,975千円)で、対前年比0.9%増加し、経常収支比率は、94.5%(前年度90.6%)で3.9ポイント上昇、医業収支比率も、87.7%(前年度84.3%)と3.4ポイント上昇した。

病院事業収支差引純損失は427,352千円(前年度純損失731,925千円)となり、前年度より304,573千円改善している。

病院事業別では、八鹿病院が純損失443,445千円(前年度722,651千円)と改善し、村岡病院は純利益16,093千円(前年度純損失9,274千円)と黒字となった。

医業収益は6,581,749千円(前年度6,298,053千円)で283,697千円(4.5%)の増収となっている。内訳は入院収益で224,404千円(5.3%)増加し、外来収益は25,898千円(1.5%)の増加となっている。

医業費用は、7,507,355千円(前年度7,471,460千円)で対前年比35,895千円(0.5%)増加している。

費用増加したものは、給与費61,295千円、資産減耗費4,455千円、経費3,018千円などであり、費用減少の主なものは、材料費13,258千円、減価償却費17,684千円、研究研修費1,042千円である。

八鹿病院では、入院患者一人一日あたりの収益が41,729円(前年比263円減少)、外来患者一人一日あたり収益は11,941円(前年比106円減少)となった。村岡病院では、入院患者一人一日あたり収益が30,457円(前年比324円増加)、外来患者一人一日あたり収益

は 16,160 円(前年比 368 円増加)となっている。

(2) 病院事業の職員数及び職員給与費の状況

令和元年度末の職員数は、合計 767 人で、前年度に比べ 1 人の増員となっている。職種別の職員一人当りの平均給与月額は平均年齢、平均経験年数等からみて、正規職員の平均給与月額は 485,482 円で、全国平均の額 590,053 円を 104,571 円下回っている。給与費は、令和元年度は 4,633,725 千円(前年度 4,572,430 千円)で 61,295 千円増加している。

(3) 医師数の状況

医師数は平成 18 年度 58 人(八鹿病院 54 人、村岡病院 4 人)以来減少し続け、平成 23 年度の 38 人を底に、平成 24 年度は 1 人増員し 39 人、平成 25 年度は 5 人増員し 44 人と増加したが、平成 26 年度は 3 人減員し 41 人、平成 27 年度は 1 人減員(臨時 1 人減員)し 40 人、平成 28 年度は 2 人増員し 42 人、平成 29 年度は 3 人減員し 39 人、平成 30 年度は 5 人増員し 44 人、令和元年度は 1 人増員し 45 人(八鹿病院 41 人、村岡病院 3 人、老人保健施設 1 人)の体制である。

(4) 病院事業の材料費等の状況

薬品費を主体とする材料費は、1,033,099 千円(前年度 1,046,357 千円)で 13,258 千円減少し、医業収益に対する割合は 15.7%(前年度 16.6%)と対前年比 0.9 ポイント低下している。

経費については 978,250 千円(前年度 975,232 千円)と前年に比べ 3,018 千円増加した。内訳は委託料 532,563 千円(八鹿病院 507,205 千円、村岡病院 25,358 千円(前年度 515,365 千円))、光熱水費 125,162 千円(八鹿病院 115,958 千円、村岡病院 9,204 千円(前年度 129,234 千円))、修繕費 54,482 千円(八鹿病院 51,518 千円、村岡病院 2,964 千円(前年度 66,993 千円))などが主なものである。

(5) 資本的収支の状況

令和元年度の医療機器等整備事業は、主なものとして八鹿病院では、電気手術器の更新(8,370 千円)、マンモグラフィー用検像ワークステーションの更新(5,400 千円)、SPO2 監視システム(5,184 千円)などを行っている。

施設整備事業としては、昨年度に引き続き老人保健施設の照明 LED 化更新工事(3,974 千円)を行っている。

資本的支出の総額は 938,862 千円(前年度 1,116,619 千円)で、その支出内訳は、企業債

償還金 822,254 千円(前年度 778,107 千円)で構成割合は 87.6%(前年度 69.7%)、建設改良費 70,478 千円(前年度 285,042 千円)で構成割合は 7.5%(前年度 25.5%)、投資 46,130 千円(前年度 53,470 千円)で構成割合は 4.9%(前年度 4.8%)となっている。

これらに対する財源は、構成市町である養父市と香美町が負担する他会計繰入金 583,861 千円(前年度 513,387 千円)、企業債 58,700 千円(前年度 267,500 千円)、寄付金 300 千円(前年度 2,495 千円)、投資回収金 65,725 千円(前年度 6,531 千円)で固定資産売却代金は今年度、前年度ともに計上はなく、資本的収入の総額が 708,586 千円(前年度 789,913 千円)に留まり、差引財源不足額は 230,276 千円となり、損益勘定留保資金等により補填している。

(6) むらおか訪問看護ステーション

一日平均利用者数は、18.1 人(前年度 18.6 人)と 0.5 人の減少となった。療養料収益は 44,899 千円(前年度 45,478 千円)と 579 千円(1.3%)の減収となっている。事業収支状況は 3,605 千円(前年度 6,225 千円)と 2,620 千円減少したが引き続き黒字を計上している。

(7) 看護専門学校

総収益 132,011 千円(前年度 145,524 千円)、総費用 168,905 千円(前年度 165,542 千円)で差引純損失は 36,894 千円(前年度純損失 20,019 千円)となり、対前年比 16,875 千円悪化している。内訳は、収益では、事業収益(授業料ほか)31,759 千円(前年度 32,527 千円)で総収益に対する構成割合は 24.1%(前年度 22.4%)、事業外収益 100,252 千円(前年度 112,997 千円)で構成割合は 75.9%(前年度 77.6%)となっている。看護学校事業という特殊性により、補助金・負担金交付金はそれぞれ補助金 16,738 千円(前年度 17,738 千円)、負担金交付金 47,711 千円(前年度 57,871 千円)と合わせて 64,449 千円(前年度 75,609 千円)で構成割合 48.7%(前年度 51.9%)と外部資金への依存度が高い。

事業費用は 153,654 千円(前年度 146,842 千円)であり、主な内訳は給与費 107,761 千円(前年度 101,059 千円)で総費用に対する構成割合は 63.8%(前年度 61.1%)、経費 21,758 千円(前年度 21,177 千円)で構成割合は 12.9%(前年度 12.8%)、減価償却費 22,237 千円(前年度 22,414 千円)で構成割合は 13.2%(前年度 13.5%)となっている。事業外費用は、15,251 千円(前年度 18,685 千円)で、内訳の主なものは支払利息 13,118 千円(前年度 16,807 千円)で 7.7%(前年度 10.2%)の構成割合となっている。

(8) 福祉センターの状況

① 老人保健施設

年間利用者数は施設サービス、短期入所療養介護、重症心身障害児(者)短期入所を合わせた入所者数 31,488 人(前年度 30,824 人)で前年比 664 人増加し、通所者数 11,020 人(前年度 9,811 人)で前年比 1,209 人増加している。事業収益は 569,142 千円(前年度 543,420 千円)と 25,722 千円の増収となっている。事業収支は、総収益 603,629 千円(前年度 579,884 千円)、総費用 622,588 千円(前年度 612,662 千円)で差引純損失は 18,959 千円となり、前年度純損失 32,778 千円から改善した。総収益に対する構成割合は、事業収益 569,142 千円(前年度 543,420 千円)で 94.3%(前年度 93.7%)、事業外収益 34,487 千円(前年度 36,464 千円)で 5.7%(前年度 6.3%)となった。

事業収益は、入所収益 430,207 千円(前年度 411,952 千円)で構成割合は 71.3%(前年度 71.0%)、通所収益 118,256 千円(前年度 110,823 千円)、構成割合は 19.6%(前年度 19.1%)が主なもので、事業外収益については、負担金が 9,773 千円(前年度 12,391 千円)で、構成割合は 1.6%(前年度 2.1%)と収益の主なものとなっている。

費用では事業費用 602,444 千円(前年度 590,897 千円)で総費用に対する構成割合は 96.8%(前年度 96.5%)。事業外費用は 20,144 千円(前年度 21,695 千円)で、3.2%(前年度 3.5%)となっている。

事業費用は、給与費 456,690 千円(前年度 444,334 千円)で構成割合は 73.4%(前年度 72.6%)、経費 114,504 千円(前年度 113,412 千円)、構成割合は 18.4%(前年度 18.5%)が主なもので、事業外費用は、支払利息 9,773 千円(前年度 12,391 千円)が主なもので構成割合は 1.6%(前年度 2.0%)となっている。

② 南但訪問看護センター

平成 27 年 4 月に、朝来訪問看護ステーションを南但訪問看護センター朝来サテライトとして組織改編を行って 5 年経過。

利用者数が前年度比 1,970 人増加し、一日平均利用者数は 149.7 人(前年度 140.4 人)と 9.3 人増加したことにより事業収支は前年度比 29,449 千円の増益となった。

総収益 357,133 千円(前年度 334,128 千円)、総費用 301,624 千円(前年度 308,067 千円)で差引き 55,509 千円(前年度 26,061 千円)の黒字となっている。内訳は、事業収益では療養料収益が 353,422 千円(前年度 330,978 千円)、総収益に対する構成割合は 99.0%(前年度 99.1%)とほぼ全額を占め、事業費用では給与費が 270,507 千円(前年度 274,640 千円)で、総費用に対する構成割合は 89.7%(前年度 89.2%)となっている。

③ 居宅介護支援事業所

事業開始 19 年が経過し、年間プラン作成件数は 1,361 件(前年度 1,334 件)となっている。事業収支状況は、総収益 19,394 千円(前年度 19,033 千円)、総費用 27,691 千円(前年度 26,737 千円)で、差引純損失 8,297 千円(前年度純損失 7,704 千円)となり、前年比 593 千円悪化した。事業収益では受託収益が 19,106 千円(前年度 18,743 千円)で総収益に対する構成割合は 98.5%(前年度 98.5%)、事業費用では給与費が 25,872 千円(前年度 25,367 千円)で総費用に対する構成割合は 93.4%(前年度 94.8%)となっている。

3 審査意見

令和元年度の収支については、組合全体で収入 8,551,320 千円(前年度 8,143,206 千円)、費用 8,983,707 千円(前年度 8,903,346 千円)で差し引き 432,387 千円(前年度 760,140 千円)の純損失を計上した。患者数、利用者数の増加が奏功し、408,000 千円の増収により収支は、328,000 千円改善した。結果、当年度未処理欠損金 1,710,470 千円(前年度未処理欠損金 1,278,083 千円)を計上する決算となった。八鹿病院、村岡病院の入院患者数は 108,263 人となり、前年度 102,272 人から 5,991 人(八鹿 5,689 人、村岡 302 人)増加した。外来患者数においては 139,074 人となり、前年度 135,909 人から 3,165 人(八鹿 4,005 人増、村岡 840 人減)増加している。病院事業収支に大きな影響を持つ八鹿病院の患者数は、入院患者数が 2 年連続で増加となり、外来患者数に於いては平成 26 年度以来 5 年ぶりの増加となった。

八鹿病院は、同規模の黒字公立病院の全国平均及び近隣の公立病院に比べ、外来患者数が少ない状況にある。村岡病院は、平成 30 年 10 月に地域包括ケア病床を 21 床に増床したことなどにより、2 年連続で入院単価が増加している。南但訪問看護センターは、地域を分けたサテライト方式が定着し、利用者数は前年度比 1,970 人増加した。看護専門学校については、卒業生 24 人の内、当病院へ 21 名が就職しており、看護師確保に寄与している。また但馬地域の医療機関の看護師確保にも貢献している。

収入の増加を図るには、地域が必要とする診療科医師の確保が急ぐべき最重要課題であり、地域医療の充実並びに健全経営を達成するためにも、引き続き積極的な取り組みを望む。医師修学資金貸与制度による修学資金貸与者は平成 30 年度 3 名、令和元年度 3 名の合計 6 名の医師が当病院に着任している。これら若手医師の指導育成に尽力していただくよう求め、その活躍に期待する。

当病院は、医師数が少ない一方、医師以外のリハビリ技師等コメディカルスタッフが充実し、

最新の医療機器が導入されていることから、これらの長所を生かして、総合診療部門のさらなる活用やコロナ禍で一時休止していた人間・ドック検診事業の積極的な受入れなど、患者数増加の取り組みを望む。

但馬地域の適切な医療提供体制の構築と当病院の現状を踏まえて、平成 27 年度に策定された「第三次公立八鹿病院組合病院改革プラン」は、平成 27 年度から令和 2 年度までの6カ年計画であり、5 年経過し最終年度を迎えている。院内の各診療科、各部署が連携し全職員が意思疎通を密にして一致協力して改革に取り組んでいただきたい。

また、当地域の現状をよく勘案し、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波も考慮した次期改革プランとされたい。

構成市町民のための地域中核病院として当病院に対する地域住民の期待は大変大きなものがある。厳しい経営状況である今こそ、当病院の基本理念である「医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くす。」および行動指針にある「患者中心の医療」、「思いやりのある医療サービスの提供」を大切に運営していただきたい。

この期待に応えるためには、地域住民の協力が必須であり、前年度に引き続き地域に出向いた健康講座等で住民の理解と協力を得て、良質な医療の提供、経営改革に尚一層の努力を求めらる。